

◆ 2024 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：森のフィールド学舎

27A-32

代表者：代表 佐藤 浩一

URL : <https://morinomanabiya168.wixsite.com/website>

1. 活動が必要とされた状況

- ・ 放置されていた休耕地の小山入りでは、水が管理されなくなったことで水辺の多様性がなくなり、水辺に生息する生き物がいない状況である。

小山入りで発見した絶滅危惧種のトウキョウサンショウウオやアカハライモリは止水に生息、産卵する生き物のため、生息場の整備は急を要する状況である。

- ・ 休耕地の横に市道があるが、途中崩れて道幅が狭く凹凸も多いため、ハイキングやエコツアーの際に転落事故が起こるケースが想定される。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

〈時期〉令和6年9月～令和7年3月

〈人数〉森のフィールド学舎メンバー10名で作業を行っている。飯能市エコツーリズム推進課のエコツアーでも、参加者を募りトウキョウサンショウウオの産卵地整備を行っている。

また、専門学校生や高校生にも数名有志でご協力頂き、管理、整備を行うこともあった。

〈内容〉小山入りに生息する生き物の環境づくりをするため、沢から休耕地に水を通し、水路や池、田んぼ等を作成して、生き物の保全活動を行った。人がハイキングや観察がしやすいよう、休耕地を通る道や畦道などを安全に整備した。

3. 活動の成果

- ・ 水路や貯水池、田んぼ等に水が入るようになった。貯水池等、止水の環境が出来たことで、昨年は1、2匹ほどだったアカハライモリが10匹以上見られるようになり、ヤマアカガエル等の生き物も、産卵に来ていることも確認できた。止水に産卵するトウキョウサンショウウオも3月4月ごろに産卵のため、これからの産卵数に期待ができる。

- ・ 市道や畦道を作ったことでエコツアーの際に移動での危険性もなくなり、ハイキングや観察がしやすい谷戸となった。



4. 今後に残された課題

- ・ 休耕地の保全として、水の管理では不足している状況である。休耕地では水量が足りないため、新たな水の確保をして、雨が降らない時期でも安定した水源が必要となる。

- ・ 谷戸が、左右に二次林があるがナラ枯れをおこし、倒木の危険性がある。また、休耕地に木々が被さっているため、日陰に生息する植物などが繁茂しており、田んぼの稲にも影響がでる可能性もあるので、森の管理も行い、多様性のある環境づくりが今後必要になる。

